

# 安全作業手順書【パッカー車】



		見積もり基準をした危険性の評価			
		○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)	
可能性(A)	○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)	
	△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)	
	× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)	

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/5/21  (前回改正:2025/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛鳥北IC,有松IC~上社JCT)
機器工具 ・車両	パッカー車	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、 耐切削手袋、保護メガネ、安全靴

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はこうする)			(A)	(B)	リスク
準備工	作業確認 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手、スイッチマン)を決める 作業場所、進入順序、駐車場所を確認する 交通規制状況を確認する	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、KP等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して	手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう / / /	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する / / /	○	○	1				
		作業前点検 使用前の車両点検を行う	以下の点に重点を置いて (車両) ブレーキ、クラッチ (油圧装置) 油圧ポンプ、油圧シリンダ、ゴムホース、 油圧パイプ継手、油圧バルブ (電気装置等) 積込みスイッチ、排出コントロール装置	点検不足により、作業中にパッカー車が故障する / / /	○	×	3	作業前に必ず点検を行う / / /	○	○	1			
	適切な保護具を着用する	耐切削手袋、保護メガネ		○	×	3	作業開始前に緊急停止装置の動作確認を行う。 耐切削手袋、保護メガネなどを着用する	○	○	1				
本作業	出発 基地等、敷地内から車道へと進入する 目的地へ回送する	周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して	確認不足により一般車両及び人と接触する / / /	△	×	4	余裕を持って慎重に車道へ流出する / / /	○	△	2				
		車両回送手順書に従い	車両回送手順書に従う											
	搬入作業 草、枝、等積込んでいく	油圧動部に手を巻き込まれる	油圧動部に手を巻き込まれる 作業員の巻き込まれ時に動部が止まらず連続作動する	○	×	3	物理離隔保持板を設置し、体や手を近づけない。 作動ボタンを押す人(スイッチマン)を指名する。 投入時は保持板を動かさない。 連続ボタンは排除し、リース車に関しては養生テープ等で連続使用ができない措置を講じる	○	△	2				
		積込み時に枝がホッパーからはみ出る	枝がはね返り怪我をする	△	△	3	積込み樹木は、ホッパー投入口の横幅に収まる長さに切断する。	○	○	1				
		投入口の枝は手で押し込まない	作業員が巻き込まれる	○	×	3	投入口へ押し込まれる際は道具を使用する。	○	○	1				
		パッカー作動ボタンを押す際、積込み作業員が投入口に接近している	作業員が巻き込まれる	○	×	3	スイッチマンは作業員の安全な離隔と投入口から発生材はみ出しがないかを確認し、周囲に声掛け後に作動ボタンを押す。	○	○	1				
		積込み時の一人作業禁止	作業員が巻き込まれる	○	×	3	積込時は操作者(スイッチマン)1名と積込作業員1名の2名で実施する。	○	○	1				
	回転板の異常時(投入した物がホッパー内で詰まるなど)	作業員が巻き込まれる	○	×	3	必ず非常停止ボタンを押し、回転板に安全棒(バール等)を設置して対応する。	○	○	1					
後片付け 押し込み板を格納する	周囲の状況に気をつけながら	/	/	/	/	/	/	/	/					
仕上げ	発生材や道具を片付ける	車線側、他の作業員等十分周囲に注意して	片付け作業やクレーン操作作業が重複し作業員同士や、クレーンとの接触を起こす / / /	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、全体の動きを指示しながら片付けを行う	○	○	1				
	清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する	車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	掃き掃除やブロワー使用の際、走行車に気づかず清掃物が飛散し、接触する / / /	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、警笛等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1				
現場離脱	25.車両回送手順書に則る													
積荷おろし	搬入先で積荷をおろす	荷下ろし時の周囲確認	荷下ろし時に発生材と接触する / / /	○	×	3	荷下ろしの際は、操作者が周囲に人の立入がないことを確認した後荷下ろしを行う。	○	○	1				